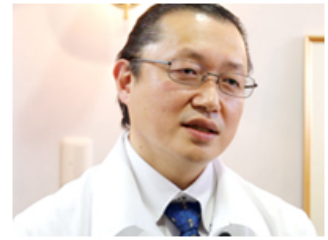


『マイクロスコープと出会って』



吉見歯科医院、神奈川歯科大学成長発達歯科学講座、水滸会 吉見英広

私は、一昨年、昨年とマイクロスコープを3台導入しました。一昨年にまず一台目、そして昨年二台目、三台目とすべてのユニットに設備しました。

なにがそこまで私を動かしたのでしょうか？私自身の治療システムの変化を導入前、後でどのように変化したのかを具体例をもって説明します。まず一番最初が変わったのは、ペリオ処置でした。①、歯肉溝をエアで吹いてポケット内を観察します。そうすると相当量の歯石を見つけることができます。肉眼では一見スムーズになったかのように見える根面もマイクロで観察するとラフサーフェースになっているときがあります。今は必ずマイクロで見ながら徹底的に除去しています。②、根管治療などは、根管根尖孔近くの軟化象牙質の繊細な除去を極小のラウンドバーで行うなど、いままでの発想では考えられない治療方法となっています。③、インプラント埋入時にも、必ずマイクロを使います。上顎の骨量が非常に少ない場合、上顎洞底部のシュナイダー膜の繊細な扱いを可能にします。安全に確実にサイナスを挙げることができます。④、補綴物はマージンフィットのチェックはもちろんのこと、精度の高い咬合調整ができます。調整といっても平面、曲面、線状面、点状面とあらゆる形態が存在します。これらの形態表現を肉眼単独で作るのは無理です。しかも、調整直後のポーセレンの面は粗造です。かなり念入りに研磨しないと本来の陶材の本来の滑沢面を表出させることはできません。これらの調整は、全てマイクロスコープなしには実現不可能です。⑤、矯正は装着ワイヤーとブラケットとのフィットが要です。ここは、肉眼単独ではかなりラフな状態であったといえます。ここを、しっかりマイクロスコープでチェックして勧めた結果、動的期間が約20%短縮できたと思います。①から⑤だけではなく、すべての次元でマイクロスコープは、大変に役立ちます。

それでは、患者様はどのように感じられているのでしょうか？ほとんどの患者様が、たいへんに満足されています。マイクロを見ながらの処置は、患者様にとって苦痛なのではなく、逆に「楽しみ」になっているようです。必要最小限度の開口量と精度の高い処置が実現でき術後経過が良好なわけですから、患者様満足度は当然高くなります。術前、術後のマイクロスコープ画像をお見せすれば満足度はさらに高まります。更に、術者も治療における不確実要素が減少してくる分だけ自身の治療に対する満足度が高まると同時に自信につながります。

以上、マイクロスコープ導入後の変化とその結果について簡単に書かせていただきました。生じては消えていくような、儚い機材ではなく、診査、診断、そして治療のどのステージにおいても確実にレベルアップできるツールであることは間違いありません。

【略歴】

1986年	日本大学松戸歯学部卒業
1992～1996年	霞ヶ関 Post Graduate センター
1996年	東京都町田市に吉見歯科医院 開院
2000～2007年	ICF 旭川
2008年	神奈川歯科大学 成長発達歯科学講座歯学研究科 卒業 (Ph.D 学位取得)
2009年	神奈川歯科大学 年間最優秀論文賞 川村賞

【資格など】

神奈川歯科大学 非常勤講師
神奈川矯正研究会インストラクター
国際先進学際歯科医学会アジア支部(IAAID ASIA) 副会長
水滸会臨床実習コース主催 (パーシャルデンチャー)